クルマの魅力アップ

新興国開拓と環境対応を推進

トヨタ自動車

トヨタ自動車が、成長に向けたアクセルを再び踏み込もうとしている。〝超〟円高というマイナス要因で国内生産は厳しいものの、豊田章男社長のもと、地に足をつけて取り組んできた「いいクルマづくり」の成果を世界に問う時が来た。2012年は年間生産初の1000万台という新たな領域へと踏み出そうとしている。

高級車ブランド「レクサス」には新デザインを採用

変わるトヨタ

トヨタの12年の生産台数計画は、ダイハツ工業、日野自動車と合わせて前年比27・9％増の1005万台。過去最高だった07年の949万7754台を上回り、1000万の大台を超える目標を掲げた。

1000万台を達成すれば自動車メーカーとしては初の快挙。米ゼネラル・モーターズ(GM)でさえ達成できていない大きな壁だ。

トヨタもリーマン・ショック前の07年には、1000万台を上回る目標を設定したこともあった。ところがその計画は、その後の大きな環境変化で撤回・変更を余儀なくされる。

5年近い試練の年月を経て、再び大台を目指すまでになったトヨタ。ここに至るまでに、自らが大きく変わった。

11年3月に策定した長期ビジョン「トヨタグローバルビジョン」では企業としてこうありたいという大きな目標像を掲げ、それに向かって巨大な組織を引っ張っていくスタイルに変えた。「いいクルマや街、社会を作ることによって安定した経営基盤を築き、持続的成長を実現する」(豊田章男社長)。社会に受け入れられる企業活動を続けていけば、業績は後からおのずとついてくるというわけだ。

組織も変わりつつある。

新たな領域に踏み出す

12年5月の記者会見で豊田社長は「新たな成長プラットフォーム作りのスタートラインにやっと立てた」と笑顔をみせた。品質確保に向けた人材育成などの取り組みが成果を挙げ、生産ラインの小型・低コスト化など新興国での事業展開がしやすい固定費の構造を作りつつある。「労務費も全体を抑えながらも正社員や新興国へのシフトが進んでいる」と小沢哲副社長は説明する。

得意のHVや新興国戦略車で、販売数を伸ばす
(売れ行きが好調な小型HV「アクア」)

現地が主体に

トヨタはリーマン・ショックを受けて事業の方向性を軌道修正した。これから目指す方向性のキーワードが「新興国」と「環境対応」、そして「クルマの魅力アップ」だ。

新興国では現地のニーズを最大限反映し、開発や生産についても現地の事業体が主体となった車をシリーズ展開する。東南アジアやアフリカなどですでに実績のある「IMV」シリーズをはじめ、小型車「エントリー・ファミリー・カー(EFC)」などを拡大する。

10年にはトヨタ全体の4割を占めていた新興国での販売台数を、15年には5割まで引き上げる計画。組織もグローバルに各地域の主体性を生かすものへと変えていく。

環境対応では、ハイブリッド車(HV)、プラグインハイブリッド車(PHV)、電気自動車(EV)、燃料電池車(FCV)という次世代自動車の研究開発を全方位で推進していく。「顧客ニーズの主流がいつ、どう決まっても対応できるようにする」(豊田社長)考えだ。

中でも得意のHVは、15年までに約10車種を投入。加えて、HVの性能を決める上で重要な役割を担うエンジンも、より高効率・低燃費を実現する技術開発を推進する。

感性に訴える

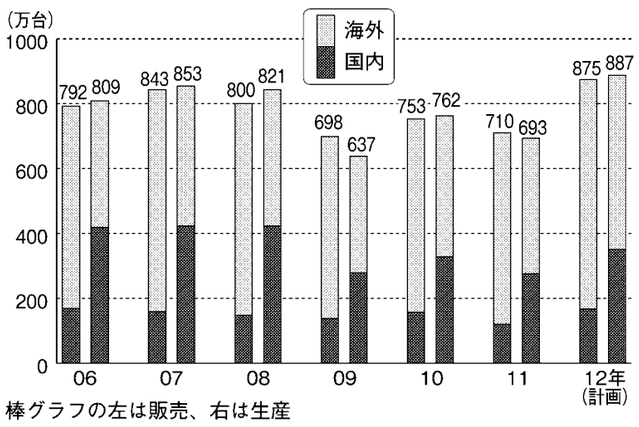
クルマの魅力づくりでは「ワクワク・ドキドキ」をキーワードに、デザインや走りなど、使う人の感性に訴える商品力を強化。日本をはじめとする先進国で、もう一度若い世代のクルマに対する共感を得られるように変える。高級車ブランド「レクサス」の改良や、スポーツカー「86(ハチロク)」の投入など、一部ではすでに成果を挙げつつある。

経営体質もより変化への耐性を高める。「連結営業利益1兆円程度」「連結営業利益率5％」「単体営業損益の黒字化」を、1ドル＝85円の円高、年間販売台数750万台という厳しい経営環境でも、コンスタントに実現できる体質を確立する。

明確な台数目標こそ掲げていないが「15年にトヨタとレクサスで世界販売台数900万台レベル。(ダイハツと日野を含む)グループでは1000万台規模」(同)を想定する。

トヨタはグローバルビジョンの実現に向けて、着実に歩を進めている。単体営業損益の黒字化など達成のめどが見えない目標もあるが、まずはグループ1000万台の生産を達成に向けてまい進する。

トヨタ(トヨタ・レクサス)の生産・販売台数の推移



棒グラフの左は販売、右は生産

TOYOTA

子どもも大人も同級生。
みんな、行きたくなる学校があります。

鳥の声や花の色、動物のあしあと。白山の森は、日々ちがう顔で迎えてくれます。
トヨタ白川郷自然學校で、生きている自然を体験してください。

世界遺産に登録された合掌集落の地、岐阜県白川郷。
この白山麓のふところに、ユニークな宿泊施設があります。トヨタ白川郷自然學校。ここは、温泉と食の恵みを堪能できるオーベルジュ。
そして、伝統文化に触れ、大自然と対話する学びのフィールドです。季節の体験プログラムや環境との共生プロジェクトに、
あなたも参加してみませんか? 企業研修・ゼミなどでもご利用いただけます。どうぞ、みなさまでお越しください。

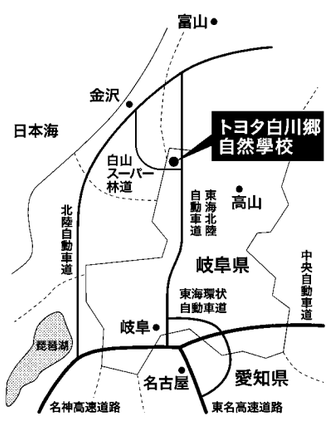
◆ネイチャーガイドなどのレギュラープランのほか、季節のオプションを揃えています。 ※詳細はホームページをご覧ください

レギュラープラン料金	
お1人様 1泊2食1ネイチャーガイド(消費税・サービス料込)	大人 10,600円～ ／ 子供 8,500円～

●和室または洋室、宿泊されるグループの人数に合わせた部屋をご用意します。
夕食はフレンチのハーフコース、朝食はカフェテリア方式の洋食となります。
●大人、子供ともにプラス2,000円で夕食をフルコースに変更可能です。
※年末年始等、特別期間料金を設けておりますのでご了承ください。※詳しくはお問い合わせください。

学校・企業研修等、
団体向けプログラムのオーダーも承ります。

●「新入社員」へのフォロー研修や「若手管理職もしくはリーダーシップを必要としている方々」への環境教育研修が可能です。研修対象や主旨を伺った上で、具体的な研修プログラムをご提案いたします。
●自然体験を中心としたプログラムもご要望に合わせてご提案いたします。
●学校団体の目的やご要望に合わせてアレンジいたします。



星空と温泉と自然体験のエコツアー

TOYOTA Shirakawa-Go Eco-Institute
トヨタ白川郷自然學校

ご予約・お問い合わせ　〒501-5620 岐阜県大野郡白川村馬狩223
Tel.05769-6-1187　http://www.toyota.eco-inst.jp　e-mail info@eco-inst.jp